2026 4 vol.145

ヨコハマよみうり
Yokohama Yomiuri

■発　　行／横浜読売会
■発 行 日／毎月5日
■発行エリア／横浜市内全域
■制　　作／ヨコハマよみうり編集部
〒231-0021
横浜市中区日本大通7
日本大通7ビル4F YBP
https://yokohama-yomiuri.co.jp

音楽　落語
チケットのお求めは4面へ
限定発売あり、お見逃しなく!

NHKテレビ『熱談プレイバック』でもお馴染みの講談師・神田阿久鯉さん。「講談は座布団と釈台があればどこででもできます」と胸を叩く。パパパンと勇ましく釈台を打つ張り扇は、一つ一つ講談師さんの手作りなのだそう。その張り扇を手に、今日はご自身のことを語っていただこう!

溢れる横浜の想い出

横浜の栄区で育ちました。鎌倉と隣接し「横浜のチベット」と言われていて、山、山、山ばかり（笑）。横浜で海というと山下公園辺りが思い浮かぶと思いますが、私は海といえば金沢八景の海。空気がキリリとする冬には、どこからか汽笛の音が聞こえてきました。通った小・中学校は丘のてっぺんにあり、校庭からはすっとした富士山がくっきり見えて。

横浜にはたくさんの想い出があります。子どものころに行った中華街。あのころは今よりのんびりとした雰囲気だったように思います。動物園といえば野毛山動物園。幼稚園の遠足はドリームランド。ここは夏にはプール、冬にはスケートに行ったものです。横浜博覧会の時はパスを買って何度も足を運びました。観覧車はこの横浜博の時のもの、みなとみらいの開発もその後始まったんですよね。横浜開港祭のパレードも見に行ったし、ファンだったTHE ALFEEの横浜スタジアムコンサートにも行きました。秋にはイチョウ並木をそぞろ歩き。大学卒業後就職し、ほどなくして都内に越しました。横浜を離れてから、横浜は東京より暖かいと気づきました。

エイヤー!と飛び込んだ世界

講談師の世界に飛び込んだのは20代後半。仕事を辞め、次の就職先を見つけなくてはと、せっせと面接を受けていた時期、テレビをつけたらEテレで『日本の話芸』という番組をやっていて。それまで落語も講談も特に興味はなかったのですが、本当に偶然でした。そしてその講談に心打たれ「講談師になろう」と即決。人さまの前に出る仕事に就こうなど、これっぽっちも思ってはいなかったのに。そんなふうに「エイヤー!」と無茶できるのは、若さの特権ですね。

そうと決めたら、ではどなたのところに入門するのか、講談を聴いて決めようと。雑誌『ぴあ』で公演情報を調べ、数カ月かけて真打全員の講談を聴き、三代目・神田松鯉（しょうり）の門を叩こうと決めました。芸が素晴らしかったのです。今でも私の芸はまだまだですが、唯一、自分を褒めたいのは、この師匠の下に入門したこと。会社では上司を選べませんが、師匠は自分で「この方だ」と思う方にお願いできる。素晴らしいことです。

今は女性の講談師も増えましたが、当時講談の世界はまだまだ男性社会。でも、女性の多い一門でしたし、会社でお勤めしても圧倒的に男性が多かった時代。女性であるということは全く気になりませんでした。

師の教え

入門して繰り返し言われたのは「ゆっくりはっきり大きな声で」。最初はそこからでした。「講釈師 見てきたような嘘を言い」とは昔から言われておりますが、師匠は「講釈師見てきた上で嘘を言い」、これが本当なんだよと。私たちは、戦国時代や江戸時代のことをあたかも見てきたように話すわけですが、説得力を伴わないとお客さまの心には届きません。「ここに駆けつけた」といえばどのくらいの距離でどこをどう歩いたのかと実際に足を運んでみる。講談に関連する映画を観たり、小説、資料を読み込んだり。自分で理解を深め、それを話に盛り込む。それでこそ聴く人の心に残るのだと。

何年やっても修業に終わりはなく、7年前に人間国宝に認定された師匠でさえも、一生修業だと申しております。好きな仕事なので、それが苦労という感覚は全くありません。毎回毎回全力投球、こちらは何十回、何百回とやっていても、一回しか来られないお客さまもいらっしゃいますから、どんな小さな講談会でも絶対に手は抜けません。それをお客さまが面白いと言ってくだされば、これに勝る喜びはありません。

たすきをつなぐ

テーマを決めた企画もの、例えば夏の怪談特集や冬の赤穂義士など、あらかじめ根多（ねた）が決まっている時もありますが、基本的に根多は講談会の当日に決めます。当日、楽屋に入ると、先に高座に上がった前座、二ツ目、真打がその日に読んだ根多を記した根多帳があり、それを見て、その日に誰もやっていない根多をその場で決めて読むのです。生の醍醐味ですね。お客さまの様子、例えば男女比や年齢層、常連さんはどういう方がいらっしゃっているのかなど、それらも鑑みて。ですからお客さまのことが見えるように、客席は決して真っ暗にはしないのです。

講談には古典と新作がありますが、私は古典派。中でも大切にしたいのが連続物です。昔は毎日講談を聴ける釈場があり、お客さまに毎日お足を運んでいただけるようにと現代の連続ドラマのような連続物が生まれました。十席で完結するものや、長いものでは二十席、三十席のものも。連続物こそが講談だからと、師匠が頑なに守り、弟子に惜しみなく稽古をつけてくださって。私も根多としていただいた連続物を一番大切にしています。

根多は基本的に口伝（くでん）、古い根多であるほど何人もの講談師の手に渡りその都度練られていますから、根多としての完成度が高いのです。100年、200年前の講談師からたすきを受け継ぎ、今度は次の世代に伝えていかなければという思いを持って、今日も高座に上がります。

初心者対象 手結びのきもの着付教室

通常全8回 12,000円（1回1,500円×8回）→ 受講料0円

◆カリキュラム◆
ゆかたの着方と半幅帯、普段着の着方、名古屋帯のお太鼓結び、フォーマルの着方、袋帯の二重太鼓結び（全て手結びで行います）
※着物、長襦袢、帯の貸し出し有り（全8回3,500円）

◆開講要項◆
期間／週1回の2ヶ月（応募者には開講日の1週間前に受講券を送付）
定員／各時間5名
受講料／無料 ※但し教材費として期間中6,900円（税込）必要

教室	4月生		5月生		6月生		時間	会場
	コース	開講日	コース	開講日	コース	開講日		
横浜	月曜	4/13	金曜	5/22	月曜	6/22	A・B・C	横浜駅西口 歩4分
銀座	金曜	4/17	水曜	5/20	月曜	6/22	A・B・C	有楽町駅銀座口 歩5分
新宿	木曜	4/16	火曜	5/19	月曜	6/22	A・B・C	新宿駅西口 歩5分
池袋	金曜	4/17	火曜	5/19	木曜	6/25	A・B・C	池袋駅西口 歩4分

A（10:30～12:00）／B（14:00～15:30）／C（19:00～20:30）

彩きもの学院
お申し込みは「ヨコハマよみうり」係へ
https://www.saikimonogakuin.co.jp/
0120-073005